

智頭町 智頭町 森林組合だより

平成28年12月 No.20

もくじ ☆☆☆☆ CONTENTS



1. 間伐材搬出加速中・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (1)
2. 大阪コンソーシアムの取組・・・・・・・・・・ (2)~(3)
3. 地区座談会のご案内・・・・・・・・・・ (4)
4. 役員視察研修～大阪・三重～・・・・・・・・ (4)
5. 高性能林業機械等の増設と現状・・・・・・ (5)
6. 「智頭スギ」を街に届ける・・・・・・・・ (6)~(7)
7. 森林経営計画団地と森林整備事業・・・・・・・・ (8)
8. 次年度予算要望・理事会開催報告・・・・・・・・ (9)
9. 地籍調査・本格参入・・・・・・・・・・ (10)

☎689-1402 智頭町森林組合

鳥取県八頭郡智頭町大字智頭 2081 番地 4

TEL(0858)75-0075(代) FAX(0858)75-1192

木材加工センター

TEL(0858)75-0104 FAX(0858)75-1446



認証材を使おう

環境に配慮した森づくり



智頭町森林組合 (0858) 75-0075

製材品は木材加工センター

森林整備を推進するため

搬出間伐を加速中



政府は森林・林業再生プラン等により、2012年（平成24年）の木材自給率50%以上を目指し、森林整備を集約し路網整備による低コスト化、間伐材の搬出を推進しております。

智頭町森林組合では、平成24年度から集落での説明会を重ね、森林所有者皆様のご理解のもと森林経営計画団地を設定し、この団地をベースに搬出間伐を推進しております。これにより

年々、搬出間伐の材積が増大しております。

搬出間伐を加速するために、高性能の林業機械の導入による機械化、林業専用道、森林作業道開設による路網整備推進、直営班作業員の雇用増大及び外注業者の事業量増加に取り組んでおります。

大阪の販売拠点（コンソーシアム）の取組

拠点施設の雰囲気は

智頭杉をふんだんに使用した3坪程度のモデルハウスを製作。

コンソーシアム内を半分に分け、それぞれの連携町の杉を使用したモデルハウスを製作いたしました。



(左) 小国町



(右) 智頭町

(智頭町ブース内)

イベントの開催

○キックオフイベント（平成28年3月2日）

地域連携コンソーシアム発足前のイベントとして開催。

鳥取県智頭町と熊本県小国町の林業関係者、工務店、行政担当者が意見交換し、情報を共有しました。

寺坂組合長が、智頭林業と森林組合の現状について報告しました。



(鳥取県智頭町と熊本県小国町林業関係者)



(現状報告をする寺坂組合長)

○発足記念イベント（平成28年10月14日）

6月にオープンさせたコンソーシアムの記念イベントとして、両町の町長、両森林組合長をはじめ、工務店等の一般参加をいただき、「林業から起こすイノベーション」をテーマに開催しました。

石破 茂 前地方創生・国家戦略特別区域担当大臣をお招きし、基調講演をしていただきました。また、パネルディスカッションでは、玉木参事がパネラーとして登壇いたしました。



(講演をされる石破前大臣)



(パネラーの玉木参事)

連携の取組

○エネマネ後継ハウス

コンソーシアムに関心を持っておられる立命館大学の近本先生が中心となり、環境に優しい家を作るためのデータ取りをする実験棟に、智頭杉が使えないかと模索しています。

○瀬戸内気候ネットワーク

智頭杉の赤身材に関心のある山口県、香川県等の工務店、設計事務所の社長等 12 名が来町され、優良材の美林、製材品を熟覧されました

後日、取引につながりそうな案件も出ています。

販売促進のツール

仏壇、子供用イス、フローリング材等、智頭杉（一般材）のサンプル品を展示し、また、智頭材の案内用チラシを作成し関西エリアでの智頭杉の販売促進を図っています。



樹種	サイズ(厚さ×幅×長さ/mm)	等級	価格(円/㎡)	参考	
床材	スギ	30×180×2,000	無地	7,900	本実加工
				8,500	
		特一等	4,500	本実加工	
	15×150×2,000	無地	5,000		
	ヒノキ	15×105×2,000	上小	11,000	
階板	スギ	9×100×2,000	無地	4,200	

▼参考例

・床材…スギ(30×180×2,000)
・価格:4,500円/㎡

・床材…スギ(15×150×2,000)
・価格:5,000円/㎡

地区座談会のご案内

恒例の地区座談会を次の日程で開催します。

当日は、森林組合の業務状況、新年度の取組、県・町の林業施策等の説明及び意見交換をさせていただきます。

お誘いの上、多くの組合員の参加をお待ちしております。

(なお、参加の方には粗品を準備致します。)

日	時	地区	会場
平成29年2月3日(金)	9:30～	富 沢	富沢公民館
平成29年2月3日(金)	13:30～	智 頭	産業会館2F
平成29年2月7日(火)	9:30～	山 形	山形公民館
平成29年2月7日(火)	13:30～	土 師	土師公民館(旧土師小学校)
平成29年2月9日(木)	9:30～	山 郷	山郷公民館(旧山郷小学校)
平成29年2月9日(木)	13:30～	那 岐	那岐公民館(旧那岐小学校)

役員視察研修 ～大阪・三重～

11月7日～8日の2日間、森林組合役職員が今年度から取り組んでいる大阪のコンソーシアムと三重県津市の中勢森林組合を視察しました。

大阪梅田の富国生命ビルの1室のコンソーシアムでは、智頭スギや小国スギの内装の違い、展示室の活用方法等に熱心な質問もあり、寺坂組合長やコンソーシアムの加藤事務局長が対応しました。なお、支援員の安田恵さん（豊中市在住）の紹介もありました。



中勢森林組合は、津市全域をエリアとし人工林面積33,457ha（人工林率80%）を対象に間伐施業を主体とした団地化にも積極的に取組み、安定的な事業量の確保に努めておられました。

作業システムは、1班4人体制で一つの班で作業道開設・間伐・運材・運搬（トラック運搬）を行い、隙間時間を埋め、作業の効率化と生産性の向上を図っておられ、智頭町森林組合の大きいに学ぶことがあると思いました。

新たな木材の利用創出を図るため、森林組合（事務局）、建築士、デザイナー、木材協同組合等11社で「きつつき」の名称の元に、津市木材利用促進ネットワーク運営委員会を設置。

「きつつき」のネットワークで、ユーザーが何を求めているか？をテーマにマーケティング調査を実施し、その結果によりリフォーム市場、アウトドア市場への商品開発に取り組んでおられました。



高性能林業機械等の増設と現状

森林組合では、直営班 15 名、5 班体制で路網を活用し間伐事業をおこなっているところで、高性能林業機械、グラップル付バックホウ、フォワーダを各班に配備し低コスト林業を推進しています。

現在の作業工程は、作業道開設後高性能林業機械を使用し搬出間伐を主に進めています。作業道幅員は、2.5m ですので、機械ベースは 0.25m³ クラスを使用しています。

現在、グラップル付バックホウをリースしていたので、11 月に新たにグラップル付バックホウ（写真）を導入しました。

また、森林組合では森林経営計画団地内を集約して搬出間伐を推進し 木材の安定供給体制づくりと森林所有者への収益の還元を目指しており、そのため機械化の推進による素材生産の効率化を図っています。

システム 1

伐採	集積	造材	運材	積込
チェンソー	ウインチ付 グラップル	チェンソー	フォワーダ	ユニック付トラック 又はグラップル

システム 2

伐採	集積	造材	運材	積込
チェンソー	ウインチ付 グラップル	プロセッサ	フォワーダ	ユニック付トラック 又はグラップル



(今回増設のウインチ付グラップル)



(グラップル集積とフォワーダの連携作業)

「智頭スギ」を街に届ける

鳥取県林業試験場長 大西 良幸

智頭町芦津の天然林。この季節では、ミズナラなどの広葉樹が葉を落とした中で、天に向けた濃い緑のスギが点在する風景が広がっています。「オキノヤマスギ」として知られる沖ノ山・穂見山・那岐山等の一帯に生育するスギは、智頭林業のルーツでもあります。

このオキノヤマスギの中から先人が選んで植えてきた優良な形質のスギは、地域の大きな財産として人々の暮らしを支えてきました。林業試験場では、芦津の天然スギを含む県内各地のスギの木材強度を立木のまま調査し、形質が良くヒノキ並みの強さをもったスギをこれまでに 24 本選びました。これから主伐・再造林も徐々に進むとみられ、良い品種の植栽が将来の基盤になることを思い起こしながら、シカ対策と併せて優良品種の育成を続けているところです。

さて、今年 10 月 21 日に発生した鳥取県中部地震では、1 万 3 千棟近くの住宅が被災し、全半壊も約 120 棟に及びました。4 月の熊本地震の被害はさらに甚大で、木の住まいの「安全・安心」について改めて考えさせられる年になりました。

地震に強い木造住宅を目指し、当场では無垢のスギ厚板を使った各種タイプの耐力壁の開発を進めてきました。この「スギ厚板耐力壁」で耐震補強した住宅では、今回の地震でも建物本体への被害はなく、地震に“粘り強く耐える”性能が実証された形となりました。



「スギ厚板耐力壁」の強度試験(林業試験場)



「スギ厚板耐力壁」

地震に粘り強く耐え、そのまま木の意匠になる。

この耐力壁は、壁そのものが現しで意匠になることが大きな特徴です。壁がクロス張りで中身が見えない住宅が増えましたが、木の“表情・温かさ”と“強さ（安全・安心）”が見える耐力壁は、智頭材の良さが活かせる用途になり得ると思われます。

いま、スギは大径材が増えつつあり、板としての利用が重要性を増しています。注目されているCLT(直交集成板)もラミナ(ひき板)が使われますが、この動きも国産材資源の増加を背景として、鉄筋コンクリート造など非木造の建物を木造に変える、あるいは内装を木質材料に替えるなど、街(都市)の“木化”を目指す取組の一端とみることができます。

最近、街では木材をデザインとして積極的に取り入れてリノベーション(本格改修)した店舗や事務所なども増えています。節(生き節)も、自然なデザインとして好まれる傾向もあります。

とかく私たちは“川上”と“川下”を分けた思考になりがちですが、生活者にとって魅力的なモノを届けていくには、生活者に寄り添った同じ目線での“モノづくり”が求められます。

すでに智頭では、関西圏などの大消費地も視野に取組を進めておられます。

生活者目線の女性や若い人の意見をどんどん取り入れていくことで、智頭スギならではのデザイン性に富んだ製品開発など、さらに面白い展開が始まるように感じます。



スギ梁・桁の強度試験(林業試験場)

1本のスギ大径材から、心去りの梁・桁が2丁製材できる。その木表は節がでにくいため、「現し」の建築で役立つ。

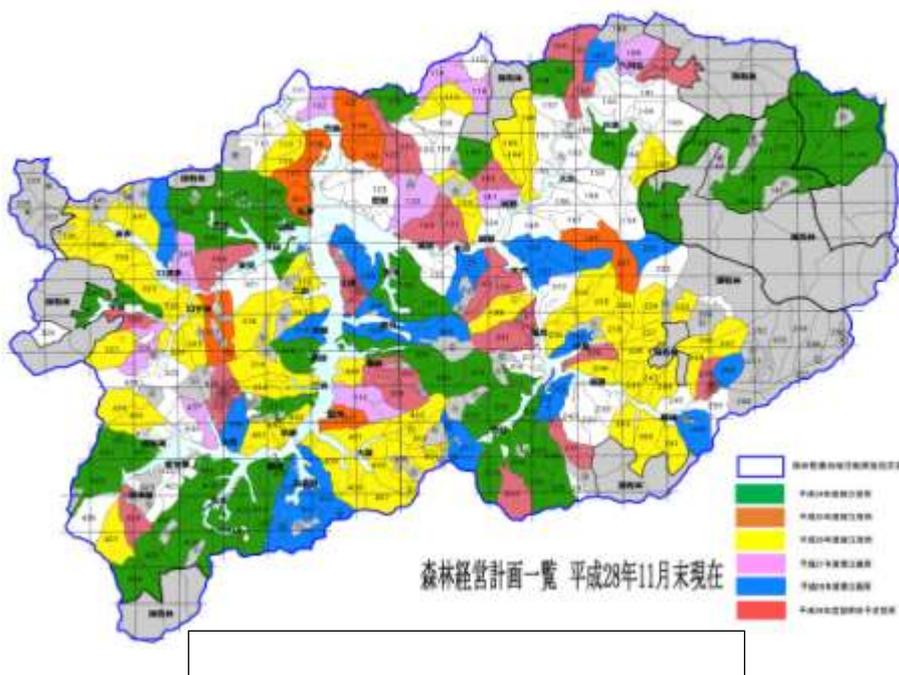


地震に粘り強く耐える「スギ厚板耐力壁」
木の意匠をそのまま生かした空間となる。

森林経営計画団地と森林整備事業



「施業の流れ」



森林組合では、平成24年度から森林経営計画制度に基づき団地を形成し、高性能林業機械を使用して作業を進めています。現在94団地の認定承認を受け、来年度も引き続き経営計画の作成促進に向けて取り組んで参ります。

なお、施業実施にあたっては、計画年度の古いものより順次、実施しています。組合員の皆様には、引続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年度予算町長・町議会議長要望

11月22日に寺谷町長、酒本議長に予算要望を行いました。

- 内容
- ① 間伐等の森林整備加速化の推進
 - ② 智頭材搬出支援の継続
 - ③ 智頭林業センター（仮称）の建設



理事会開催報告

第2回理事会（28年度） 平成28年7月15日

{協議事項}

- ① 固定資産の処分と取得について
- ② 役員賠償責任保険について
- ③ コンプライアンスプログラムについて
- ④ 6月末残高試算表について
- ⑤ 夏期手当の支給について

第3回理事会（28年度） 平成28年10月21日

{協議事項}

- ① 平成28年度上半期の仮決算について
- ② 平成28年度下半期の計画について
- ③ 固定資産の処分について
- ④ 智頭町林業振興センター（仮称）について
- ⑤ 平成29年度林業予算について（要望）

組合員の皆様へ（出資配当金について）

平成28年5月25日開催の総代会で出資配当金5%（平成27年度は3%）が承認され、8月31日付けで支払額等のご案内をさせていただきました。

まだ受領されていない組合員は、2年経過した場合は権利がなくなることから早めに森林組合にご連絡ください

なお、組合員名義の変更が出来てない人は、早急に手続きをしていただきますよう、よろしくお願い致します。（担当 総務課 村上）

地籍調査 ～・本格参入・～

昨年まで、測量コンサルタント会社が単独で実施していた地籍調査に、智頭町から調査業務の委託を受け、本格的に取り組んでおります。

森林組合は3名体制を取り、6月から8月まで西谷地域の一部で現地調査を行いました。

土地所有者及び推進委員の皆様には梅雨、猛暑等の悪天候中、立会いをしていただき有難うございました。無事に現地調査が終了し、安堵しているところです。

現在は、1年前の研修を思い出しながら、真鹿野(一部)の一筆調査準備を行っており進めています。これが終われば夏に現地調査した西谷地域(一部)の調査結果のまとめを行います。

智頭町森林組合の地籍調査技術はまだ未熟ですが、来年度は真鹿野の現地調査を行う予定です。誠心誠意頑張りますので、推進委員皆様の格別の御協力をお願いします。



智頭町森林組合加工センター従業員

